

次に挑戦するということをしてきたんです。それが会社が一部上場に応えられる規模にまで至った元だと思うんですね。もしか私が一身の損得、安全だけを願つていれば、それはちょっと無理だったですね。要するに、誰でも自分の得を全部捨てることはできないですね。どれだけそれが後回しになつて、公が優先するか、その比率ですよね。五分五分なのか、公が六で私が四なのか。公が七で私が三なのか。私は幸いなことに、家内もものに固執することはなかつたので、そういうことに囚われないで済んだということですね。

公であるということは、会社であり、会社を通じて社会をどうしていくかということですね。例えば、会社でも人を幸せにしながら成長する企業と人を不幸せにしながら膨張する企業とあるんですね。今、見ると残念ながら人を不幸せにしながら膨張する企業の方が多くなつた。これではダメで、やはり大小は別として「人を幸せにしながら成長していく」そっちを取っていただきたいですね。

# 便教会新聞

第 142 号

平成31年2月

前夜祭と掃除実習で知り合った多くの方たちとは何年も前から知り合って、どうも不思

とは何年も前から知り合いたかったよ、うな不思議な感覚でした。この感覚は、11月に参加した中国ブロック指導者研修会での掃除実習でも感じたものであり、掃除の会に参加されるすべての方々が、心の底で通じ合っていると、いう言葉では言い表すのができない不思議な

感覚です。

いかにもいいやいや参加したという顔つきの生徒さんがおられました。中学校で開催の時はよくある光景で、部活動問の先生の強制による参加

ということだなと思つた次第です。しかし、案の定、2時間の掃除実習の間に、この生徒さんの取り組みの様子は大きく変わり、始める前と終らうとするまでの間で、驚くべき変化が起つたのです。

終わった後ではその日の輝きは全く違ったものとなっていました。「恐るべし掃除の力」という思いが私の頭をよぎりました。そして、一参加者にして一日の行動を振り返ると、

者として1泊2日の新居浜での便宴会を終えて再び自宅に向かう道中、私の心の中には大きいな満足感と、自分の学校の取り組みの甘さを氣づかせて、いこざいこぞいの感謝の気持うがらり

これがせでいたがいたといふ恩讐の受け持せかあい  
ました。

『本質に目を向けさせてくれる

でくれる

前夜祭と掃除実習で知り合った多くの方たちとは何年も前から知り合って、どうも不思

とは何年も前から知り合いかつたような不思議な感覚でした。この感覚は、11月に参加した中国ブロック指導者研修会での掃除実習でも感じたものであり、帰余の会に参加される

感覚です。

さて、今回の泉州中学校での掃除実習でのことです。私の班の掃除前のミーティングのとき、いかにもいやいや参加したという顔つきの生徒

さんがおられました。中学校で開催の時はよくある光景で、部活動の先生の強制による参加ということだなと思った次第です。しかし、案

の定、2時間の掃除実習の間に、この生徒さんの取り組みの様子は大きく変わり、始める前と終わった後ではその日の輝きは全く違ったもの

となっていました。「恐るべし掃除の力」という  
思いが私の頭をよぎりました。そして、一参加  
者として1泊2日の新居浜での便教会を終えて、

再び自宅に向かう道中、私の心の中には大きいな満足感と、自分の学校の取り組みの甘さを氣づかせていただいたという感謝の気持ちがあり

余裕がない中で、公を優先できる理由は？

にできるものではないんです。忙しい中にあっても、僅かな時間でも割く、僅かな費用でも割くというとこから始めると、やがてそれがだんだん余裕という部分になってくるわけですけど、それを「そんな暇はない！」とか「そんな余裕はないから」と言つて、いつまでも「私」部分だけをやつていたら、ずーっと「私」部分で終わってしまうんです。そういう思いますね。

**人と関わると**  
自分の会社の社員だけ幸せになる、ということはないんです。人間は一人幸せになると、ということはないんですよ。周囲が幸せの中にいて幸せなんです。例えば、家族の中で、昔は一家の主人だけがご馳走食べて、酒飲んでたという家もよくあつたということですね。家族はたくあん、味噌汁で食事をしていると、いうのに、そういうのありましたね。それは幸せじゃないですよ。それと同じです。

## 『第19回便教会総会』のお知らせ

8月24日 実践報告（愛知県豊田市で）  
8月25日 掃除実習（愛知県みよし市で）  
実践報告者は新居浜市立泉川中学校の  
越智誠司先生です。141号で綴った越智先  
生の実践は大きな反響を呼びました。  
越智先生の実践を支えたものは何か？  
経営者にもマストの研修会です。  
「これぞ便教会パワー、掃除の力」です。

【編集後記】一月十九日、第62回西尾を美しくする会を西尾市歴史公園で行いました。終了後、公園内の茶室で、会の顧問、榎原康三さんは様々なことに精通し、知恵があり、いつもニコニコされて穏やかで、人との時間をとても大切にされました。掃除から四日後、心不全で帰らぬ人となりました。82歳でした。突然空いた大きな穴、いろいろなことが思い出され、涙が溢れ、唯々『ありがとうございます』の感謝に尽きます。「もっと頼りたかったたゞ」というのが本音ですが、甘えを戒め、志に向かって一步ずつ実践を積み重ねていきます。日本を美しくする会、掃除に学ぶ会の先覚者の方が一線を退かれる中、掃除を受けた恩、感動に感謝し、22年間のトイレ掃除に学ぶキャリアを活かし、「掃除の魅力、素晴らしい」を次世代に繋げていかなければならぬと責任を感じています。私は「便教会」を立ちあげるとき、「便教会」を組織にはしないと決めました。一人ひとりの心に点した灯りが「便教会の魂」で、生徒や同僚に働きかけ、コツコツと実践を重ねていく、それが「便教会」です。そうすれば良きご縁と繋がります。教師生活の半分以上は生徒と共にトイレ掃除に励みました。反対、誹謗中傷されたこともありましたが、便教会の灯火を消すことなく、縁ある生徒を耕し、種を蒔き、働きかけました。いつか、どこかで、きっと掃除の芽を出してくれるだろうと信じています。『信は身も心も柔らかにする』

掃除を3年間続けた生徒は一人しかいなかつたからです。その生徒は入学してきた時、お世辞にも良い生徒ではありませんでした。家庭訪問をした時に掃除に学ぶ会でお世話になっている方の名前がたまたま出て、生徒がトイレ掃除をやると言つてくれました。学校が休校の日も掃除だけをする為に登校し、授業も腰骨を立てて受けるようになりました。当然それまでのその生徒を知っている友達や教員もビックリするほどの変化でしたが、「じゃあ私もやります」という生徒は出てきませんでした。そんなこともあり何かのきっかけでよほどのことがありスイッチが入らなければ変われないし続かないと思つていました。しかし、できている学校があるのでチャレンジします。

また、今回はとても懐かしい再会もありました。私のトイレ掃除デビューは大阪の今宮中学校です。その時にリーダーをしてくださいました渡部ヒサさんとの再会です。初心に帰るきっかけになりました。

トイレ掃除を続けていく中で様々な思いを抱き、気づかせてもらったことが沢山ありました。始めはスイッチが入っていて一所懸命でした。しかし何年かすると、いい事をしていると少し傲慢になつたような気がします。そして自分が掃除しているトイレを汚されると腹が立ち、使用禁止にしたいとさえ思うようになりました。それでも続いていると「あれ?なんか考え方がズレてきてる」と思うようになり、それからどんどん汚されても気にならなくなりました。早朝練習で6時半ぐらいに登校してくる生徒がいます。外のトイレは学校でも一番古いトイレ

校長からは「このまま3年生もお願いします」ということだったのですが、今度入学する生徒が6年生の時、学級崩壊を起こした子供達という情報が入り、私がこの新入生を受け持つことになりました。入学後、小さな問題はちょこちょこありましたが、どの子も心を開き、何事にも一生懸命に取り組む生徒へ変化していきました。結局、1年生と3年生の2回、この子達を担任し、卒業式では大きな声で歌い、涙涙の卒業式となりました。

その後、私は教頭となり下関市の中学校へ転勤。2年を下関市で過ごし、その学校にも鍵山相談役においていただきました。その後、岩国市の小学校に校長として3年間勤務しました。そして、再び柳井市立大畠中学校へ校長として戻りました。私がこの大畠中学校を離れている間、ずっと全校生徒によるトイレ磨きは伝統として続いていました。

今、私が校長として学校経営の中で重点的に取り組んでいることは、掃除と自尊感情を高めることです。今、日本全国のすべての中学校は学力向上が求められており、毎年4月に実施される全国学力調査の結果に右往左往しているのが現状です。点数が低い学校はその是正を求められ、点数の高い学校の実践から学びなさいという圧力がかかります。私の今の立場から公的に批判をすることはできないのですが、単な

「私の人生 その十」

日本を美しくする会  
相談役 鍵山秀三郎

ました。また、全校を縦割り班にして、すべての班は担当する掃除場所を毎日変えていき、マネリに陥らないようにしました。着任した平成19年度に受け持った中学2年生のクラスは、手のかかる生徒が多かったのですが、1年後には本当に落ち着いたクラスになりました。さて、校長からは「このまま3年生もお願いします」ということだったのですが、今度入学する生徒が6年生の時、学級崩壊を起こした子供達という情報があり、私がこの新入生を受け持つことになりました。入学後、小さな問題はちょこちょこありましたが、どの子も心を開き、何事にも一生懸命に取り組む生徒へ変化していきました。結局、1年生と3年生の2回、この子達を担任し、卒業式では大きな声で歌い、涙涙の卒業式となりました。

その後、私は教頭となり下関市の中学校へ転勤。2年を下関市で過ごし、その学校にも鍵山相談役においていただきました。その後、岩国市の小学校に校長として3年間勤務しました。そして、再び柳井市立大畠中学校へ校長として戻りました。私がこの大畠中学校を離れている間、ずっと全校生徒によるトイレ磨きは伝統として続いていました。

今、私が校長として学校経営の中で重点的に取り組んでいることは、掃除と自尊感情を高めることです。今、日本全国のすべての小中学校は学力向上が求められており、毎年4月に実施される全国学力調査の結果に右往左往しているのが現状です。点数が低い学校はその是正を求められ、点数の高い学校の実践から学びなさいという圧力がかかります。私の今の立場から公的に批判をすることはできないのですが、单

今、大畠中学校の生徒は掃除に真剣に取り組んでいます。無言清掃を宣言葉に、ただ掃除をするのではなく、よりきれいにすることを頭において取り組んでいます。そして、自分は他人と比較しなくてもいいように、自分のすべてをさらけ出し、友達の良さや弱さをまるごと受け入れるような活動をしてています。

本校の先生たちもお互いの良さも弱点を相互にさらけ出しています。本当に仲の良い学校であり、安心して生活できる学校だと思っていてます。校長である自分としては、ありがたいことであると感謝の気持ちでいっぱいです。そして、私の仕事は、一つには自分の人格を高めることであり、二つ目には学校をきれいにする掃除の先頭に立つことだと思っています。そして、どんなことが起ころうとも安心して何事にも取り組んでいいよという安心感を先生方や生徒の皆さんに持つてもらうことだと思っています。

現時点では新居浜の泉川中学校の綺麗さには負

『私が私である証』

広島山陽高等学校  
教諭 村上 和弘

人は、『益がなければ意味がない』、自分にとって益のないことは意味がないと言つてゐるんです。『益はなくとも意味はある』、ですから一千五百年も経つた今日でも、日本でも、晏嬰と言えば多くの人が知つていますね。もちろん自分の利益は大事ですが、そればかりを優先するか、他者の利益をどこまで取り入れていくことができるか？

### 取るべきリスクの基準は

基準」というと難しいですね。私はここまでならやるけど、ここから先はやらない、その時々、時代もあるし、いろいろとその基準というものは変わりますよね。世の中の基準が変わらなければいいんですけど、基準が変わるわけですから、そうしますと、最後は自分の想いが優先しまして、どうしても社員のためにこうしたいとか…、こうしたらお客様さまが喜ぶということがその時の基準になっちゃうんですね。例えば、零細な仕事をしている、だけど真面目な方がやっている、個人の力ではとてもこれ以上広げることはできない。だったら、私がリスクを負つて舞台をつくってあげて、そしてそこで仕事をしてもらつたら、きっとこの方は誠実な人だから、この舞台をにやられる方もあるれば、期待に反する方も出できます。普通は失敗をすると後悔を残して、もう二度とやらないとなりますね。私はそうではないんですね。その失敗をして残した悔いというのは、必ず消えていくんです。反対に、あのときやればよかつたのにどうしてやらなかつたかという悔いは、いつまでも残る